

議 事 録

目 的	第2回尾鷲市総合計画審議会 部会協議
-----	--------------------

日 時	平成28年7月5日(火) 19:00~21:00
-----	--------------------------

場 所	本庁2階 会議室
-----	----------

部 会 名	第5部会
-------	------

内 容	
-----	--

○出席者

委員：村瀬 晃健（部会長）、塩津 史子、中西 加津代、民部 清宏、北村 清陽
市：木のまち推進課 森本補佐、松永主査、環境課 竹平課長、福屋補佐、水道部 尾上部長、高濱係長、建設課 上村課長、総務課 下村課長、財政課 中世古補佐、市長公室 濱口主任主事

○主な協議等内容

- ・次回開催日 平成28年8月2日(火) 19時～
- ・質疑応答 以下のとおり

進行：部会長 村瀬 晃健

○511 森林の公益的機能の保全

- ・委員
10年間で6200haの森林を管理するというので、これは市有林と民有林を含めてか。
- ・森本補佐
市有林民有林を含めて、原生林を省いた面積の数字になっている。しばらく放置されたもの、更新されたものが実績として示されている。
指標の考え方にも少し疑問がある部分がある。次回の目標値については、もう少し踏み込んだ形の数値にしていきたい。数値を森林整備計画に併せて置き換えたい。集約された、管理されたものとしてイメージが付きやすいと考える。
- ・委員
面積が少なくなる可能性があるのか。以後を、見越した形にする必要があるのではないか。
- ・森本補佐
もう少し分かりやすい形にしたい。
- ・委員
個人所有でも山あるが、放置した状態になっている。今から育てていく子供たちにも教えていくことも大事。
森林の植え付けをして管理していくことはお金のかかることで難しい。
尾鷲の市有林はしっかりとしているが、個人的なものは放置していることが多く、課題となっているのではないか。

・森本補佐

おっしゃるとおりで放置が続くと木がでない。触れられない。需要がなくなる。なんとかしようと市有林の主伐計画、供給量を増やして事業計画を続けている。

森と緑の県民税という財源もある。木育という観点もある。木の良さを考えてもらう。小さなことから積み重ねていく。抜本的な解決策、カンフルとなるものがないため、地道なもので、なんとかしていかうとしている。

・委員

尾鷲市だけではなく、紀北町でもブランドの尾鷲ヒノキでとおるのか。

・森本補佐

尾鷲市と紀北町のヒノキを総じて尾鷲ヒノキとしている。尾鷲市と紀北町と協力してサミットでもPRさせてもらった。県を通じて国にお願いし、実現した。

・委員

前回は触れたが、28年度の目標数値がすでに達成されているため、今年度の具体的な数値目標を持って取り組みをされているのか。

・森本補佐

市の事業としては、主伐事業がある。いわゆる材をだすことで新たに更新されることでプラス要因としている。その考え方がはたしてそれがわかりやすいものかが懸念されるため、新たな目標値を持って次回、皆さまに検討していただきたいと考えている。

・委員

今後の木材の活用は国の方でも考えられている。9階建てのビルぐらいのものが木材で建てられるようになると聞いた。2020年オリンピックの木材に対して、尾鷲市から提供できることや売り込みはやっていくのか。

・森本補佐

CLT方法といった形で木材を頑丈なものになると聞いている。いろんな方面から情報をいただいている。尾鷲ヒノキだけがそれに特化して優遇されるということは考えにくいこともある。ただし、新たな内装材として色々な方法があると思います。情報収集して色々な方面にあたっていきたい。サミットに尾鷲ひのきのテーブルを提供できたため、東京オリンピックもやっていきたい。尾鷲市はFSCの認証をとっているの、1歩リードした形である。

○512 鳥獣害対策の推進

・委員

通報件数について、平成22年は10件、平成28年は0件だが、これはどういった数字か。

・森本補佐

重複している部分が集約されている。同じ方や同じ地区からの件数は1件と数えている。この指標の10件というのも思うところがある。昨年サルで市への通報が28件ある。その他、獣害パトロール員を2名雇用しており、毎日の日誌で計上するととんでもない数になる。こちらもより実情に応じた数値を後期基本計画は計上していきたい。0件は実質不可能だと思っている。

・委員

ですよね。シカもある。

・森本補佐

0に近づく施策を打っていくということもあり、有害鳥獣に対する捕獲について、奨励金制度も昨年から設けさせていただき、今年もやっている。頭数も増えたため、来年度、再来年度も財政の許す限り続け、頭数調整という形で進めていきたいと考えている。

・委員

猟友会の取り組みだけではなく、北海道では、自衛隊が訓練を兼ねて一大イベントで、一気にシカを駆除している。三重県もそれは可能なのか。

・森本補佐

駆除ではなく、追い払いであることもあり、今後、県下での数は把握していきたいと思っている。シカで600頭だが、面積も違うため、一概では言えないが、なんとか数を増やした対策にしていきたい。

・委員

獣害について、尾鷲市はシカも、サルもイノシシもいる。輪内地区はシカが多く、田植えした苗を食べていく。2度、3度食べられるともう生えてこなくなる。シカは3メートルのネットも飛び越えるほどです。

サルのパトロールは良いため、継続してやっていただきたい。まちなかのサルの被害は減ったのではないか。パトロールの効果がある気がした。0は難しい。けっこうな被害がでていいる。獣害はいつまで経ってもなかなか難しいが、減ったような気がするがどうか。

・森本補佐

サルは被害が減った。サルの苦情に関しては明らかに減った。

22年当時はサルが群れで各所にいたが、今は群れでいるのが、向井か天満でいるだけではないか。今は、はぐれのサルが悪さをしている。追い払いの効果であれば、効果はでていいると認識しているため、継続してお願いしていきたい。

・委員

九鬼に行った際に、目の前にシカが飛び跳ねていった。秋に九鬼の昔の小学校の上にサルがいて、周辺の人には慣れているので通報もしないのかなとも思う。

まちなかのサルは減ったと思う。尾鷲高校付近の家では、屋根の上で食べて瓦をひっくりかえす悪さをしていたが、そういったことも減っている。輪内地区は特に困っておられるので、有効な対策をより頑張ってもらえたらなと思っている。

・森本補佐

輪内地区については、なかなか進んでいない状況であり、群れも残っている。九鬼や三木浦、三木里などけっこうな数の群れがある。サルは賢いため、単純な罠ではひっかからず、苦慮している。捕獲の方法も三重県で一網打尽にやっていくこともやっている。それについても、設置可能か尾鷲市でも検証したいと考えている。

・委員

自動車道を走る際に、シカが目に入っていたが、最近は見ないため、減っていると思う。効果がでていいるのではないか。

・森本補佐

シカは取りやすいこともあり、減少傾向に進む。ある程度効果がでていいるかもしれないが、もう少し続けてみないと効果が見えないこともある。今後も、引き続き頭数調整を進めていきたい。

○513 自然環境の保全

・委員

市では新エネルギー導入への普及啓発を行っていいますとあるが、これはどういったことか。

・竹平課長

新エネルギーは、昔太陽光発電の補助金をやっていたが、それ以外には、そういった部分を踏まえて、熱利用に関連する部分もあり、他にも、バイオマスなどもある。

・森本補佐

木質バイオマスについては、二酸化炭素が増えないということがあるため、地球温暖化に影響がないため、エネルギー施策としての位置付けとちがうところもある。抜本的なエネルギー施策としては持っていないところがある。燃料供給と携わっている。

・委員

石炭火力の話があった。今はあまり話題がでないが、おそらく、大気汚染が出ると市民の方が言っていたが、高まってなく沈静化したように思うが、尾鷲市にとって良い形になるのではないかとの意見もある。今は自然環境の視点での話だが、石炭火力はどうなっているのか。その辺りはどうなのか。

・濱口主任主事

商工会議所、尾鷲市、市議会とオール尾鷲でやっていく方向でやっており、途中の段階である。

・高濱係長

碧南の石炭火力を視察に行ったが、あれぐらいの規模になると環境面ではクリーンな排気しかでていない。3つの過程を経て、ほぼクリーンなものも教えてもらった。

・竹平課長

環境面で言うと、環境基準に適合しなければ施設としては成り立たない。環境基準は厳しい数値になっている。

・下村課長

自動車もクリーンディーゼルで技術は進んでいる。省エネということで発電所関係も技術の向上がある。

・委員

石炭火力の話は立ち消えているため、どうなったかと思っていたが、よくわかりました。

・委員

大気測定局における環境基準達成率は何か所ぐらいで計測しているのか。

・竹平課長

3か所あり、三木里、賀田、市役所で計測している。
浮遊粒子状物質というSPOの基準が、自動車の排ガスだがそれが基準値となる。改善されて、27年に100%に来ている。

・委員

中国からきているPM2.5はどうか。

・竹平課長

それは県が行っている。基本的に大気汚染は県がしており、市として、中電があるため、独自にやっていることもある。自動車の排ガスもクリーンになっている。環境基準を監視する形になる。

・委員

自然環境とのふれあいを通じた環境教育を行うとあるが、これはどのようなものか。

・竹平課長

尾鷲中学校の生徒が中川などで水生生物の調査をしている。生物による指標で綺麗な川、汚い川の生物の調査をしている。上流と下流ではどうなのかなど、自分が住んでいる環境がどうなのかなど、実際のものはどうかなどの環境学習をしている。

○521 資源循環型社会の推進

・委員

資源ごみの分別になってから、可燃物のゴミの減少があった。26年の0.40はもっと少ないのか。

・竹平課長

平成27年で0.38となっている。

・委員

ごみの排出量を下げなければいけないことがわかった。今回の16%の補正も励みになって、ゴミが少なくなればゴミ袋が安くなる。

・竹平課長

基本的には、推移を見なければならぬ。ごみの排出量が落ち着くのを見てから、次に踏み込んでいく。

・委員

県などの指針のなかに、ゴミ0社会があったが、これが不可能ではないという思いがでてきた。紙類、プラ、生ごみなどの分別をしていくと夢ではないことを痛感した。

・竹平課長

ゴミ0ができるかは困難なところもある。資源化できない、可燃ごみがどれくらい減るか、どれくらいの数値になるかである。

・委員

ゴミの分別の仕方がいまいち浸透していないこともある。その辺りを意識してもらうような取り組みが必要。

・竹平課長

ワンセグの放送に流して、分別の仕方を市民に伝える取り組みも始めた。

・委員

わかりやすく、間違った認識もあり、ワンセグ放送に流すとわかることもある。

・竹平課長

どれだけの生ゴミの量があるかもあるが、0にはならないと思う。なるべく減らす。実際に生ごみは水分が多い。トン数で把握するため、水分量が減れば排出量が減る。

・委員

尾鷲市のこれからの課題は生ゴミ。この生ゴミを回収するシステムができればもっともって変化がある。尾鷲は特に生ごみが多い。

・竹平課長

ますます減るかたちになるよう、啓発活動をしていく。

・委員

方向としては良い。ゴミ袋のコストではなく、ごみの量を減らしていく必要がある。

・委員

1045円のショックが続いている。このままの意識で続けていければよいと思う。

・竹平課長

例えば、資源ごみステーションで紙をどこにおくか。本来の誰でも、もってこられるよう近くにあればよい。

・委員

常設のステーションを作っていただけると、特に輪内地区の方から。随分違ってくる。

・竹平課長

管理の問題がある。何もかも持ってくることもあり、全ておけなく、マナーの問題もある。

・委員

紀北町が廃油も置けるようにしていると聞いたが。

・竹平課長

今はなくなったのではないか。

・委員

油を買い取ってくれる業者もあったが近年はない。残飯も過去に養豚業者へ持って行っていたが、それがなくなり一般ごみになった。

・委員

山林へのごみの不法投棄とあるが、九鬼と早田の間にごみがぶらさがっていたりすると聞いたり、その手の監視はしているのかということと、早田の奥の道の山に倒木があったが、規制はあるのか。

・竹平課長

道路などを管理しているところが対応する。通報があれば随時対応していく形になっている。不法投棄については、2名体制で回っている。減っては来ているが、啓発しかない。そういった処理を行い、看板設置を行っている。

・委員

大変だが、頑張っていただけだと思います。

○522 良好な生活環境の保全

・委員

浄化槽について、単独層の1年に1度の汲み取りの値段が高いと聞く。2万4千円ぐらい。2月に一度、2、3千円払い、それに県から検査ある。すごく負担になっている。高齢者にとって負担が大きいのでは。

・竹平課長

法律上で法定検査等をしなければならない。点検をきちんとやらないと、浄化槽の効果が発揮できないこともある。

・委員

転換も負担が大きくなっている。高齢者で1人暮らしの人が負担となっている。下水道の建設も遅れている。

・竹平課長

下水道の整備は高額な費用がかかることもあり、環境としては、合併浄化槽の転換については、補助を出していくといったことを行っている。新築は合併浄化槽を設置するが、単独処理浄化槽は転換の促進を図って行く。

○531 安全・安心な水の確保

・委員

前回は尾鷲の水がまずくなった話があったが、上流で石山をやっていることもある。雨の時も見ても、泥水がすごい量出ている。これが影響しているのではないか。上流はきれいだが、橋から下は茶色の水が流れている。

・尾上部長

水道水源の高速道路の関係でやめて緑化整備した。尾鷲の水がおいしくなくなったということであったが、基本的には手法は変わっていない。エディオンの上の方に大きな規模の貯水タンクを設けたが、水が滞留している時間が長くなった。少し長くおいてあるので、温度の差もあるが、水の処理自体はかわっていない。

矢ノ川に限っていうと、表面上、濁水が流れていても表面ではなく地下で捕っている。濁水を見ると数値上影響がなく、また、濁水が流れて影響がでると判断すれば取水を停止する形をとっている。

・委員

水道審議の基準値をクリアすれば、水道水としては、大丈夫だという意見が出ている。濁水としても、審議委員会が立ち上がったのではないか、それは漁協の関係か。

・尾上部長

濁水の関係で審議員から、水道審議会が水源に関して協議していくなから、濁水に関する協議会が別途、立ち上げる事となった。水産商工食のまち課が主管課となり、水産関係者も含めて、漁協関係、県、市、議会などで尾鷲湾に流れる濁水についてもそちらで協議を進めていただいている。

・委員

尾鷲の雨はゲリラ雨で流れてしまう。水道水が大丈夫でも海へは流れてしまう。新規採石はできるのか。

・尾上部長

水源保護は問題ないとしているが、関係課として、特に水産商工食のまち課は問題ありとして出している。ただ、尾鷲市が取りまとめた意見を県へ提出し、許認可申請を出してもらっている。

・委員

水道の老朽化した配水管の敷設替えは進んでいるのか。尾鷲市は古いのではないか。

・尾上部長

配水管の耐用年数が40年と言われているが、配水管のもの自体はもう少し長くもつという意見もある。間に合うように計画的に整備をやっている。

・委員

昔は真夜中でも水があふれたこともあった。

・中世古補佐 石綿管はなくなった。この前も、他の市町で大きな事故があったが、その水道管は配管図上はなくなった。

・尾上部長

昨年も何回か、住民生活に影響がないように夜間対応している。

・委員

安心しました。

○532 都市づくりの推進

・委員

道の駅整備事業について、個人的にあそこにつくるべきと思っている。

・濱口主任主事

意見として受けさせてもらおう。

・委員

空家対策、市として会議の場をもって、行政で壊すことも考えているのか。怖いところがある。

・上村課長

窓口が市民サービス課になっており、建設課も含めて関係課と対応を協議している。最終的には行政側で壊すことも考えているが、基本的には所有者で壊していただきたいと考えている。

・委員

まちなかで怖い所も数カ所ある。道を通っていてもいつ壊れてくるかもわからない恐怖がある。

・下村課長

建物が立っていると、土地の税額が安くなる制度がある。建物を壊すとその制度を受けられなくなり、税金が高くなる。都会に出るなどで、家の手入れをしないと、減免をしなくする、その後取り壊すようにしてもらおう。それでもやらなければ強制執行し、後に請求するといった形に法律も変わってきている。

・委員

住んでいないところは減免しないといった制度もでてきている。確かに市内でも崩れてきている家がある。行政が代執行すると市が先に払わないといけない。また、現在崩れている家のなかでは、土地所有者が半分違うなどの問題もある。

災害も近いといわれるなかで、評価書にある地籍調査はどれぐらいすすんでいるのか。

・上村課長

尾鷲市は、特に公図の整理が進んでいないため、地籍調査としては、まずは、道路の拡幅などの県の事業に合わせた個所から、順次進めていっている。古江、曾根でやっているが、最終的などころまでいきつかないことが多く、中途半端で終わっているところがある。

今後、災害で市内のエリアできていないところから順次やっていかなければならない。隣接したところから徐々にやっていきたい。県からの補助もあるが、予算的には厳しいところがある。立会いしても土地の境界がはっきりわからないこともある。大事な仕事だとおもっている。頑張ってやっていかなければならないと思っている。

・委員

頑張してほしい。

・上村課長

中身を見て思った意見として、マスタープランの進捗状況が指標になっており、12地域となっている。それぞれの地区で色々な柱がたくさんある。進捗管理ができていないという課題があり、関係各課にも聞き取りをして進めていきたいと考えている。

また、空家対策の話は都市づくりの推進のなかでは大事で、目標と併せて、現状と課題を整理していく必要があると思っている。意見をいただいて修正していくところは修正していきたいと考えている。項目の状況を確認していきたい。

・委員

今年度末の観光物産協会関係での都市計画審議会でも意見をいただきたい。

○533 災害に強い都市施設の推進

・委員

一番基礎である尾鷲市の庁舎が遅れている。是非、第1番に耐震をしていただきたい。災害待ったなしの状況でもある。新しい建物ということもあるが、工業高校は不可能か。

・下村課長

庁舎が昭和36年8月に建てられたため、55年になる。従前から言われているが、何を先にということ、小中学校、地区の住民が避難できるコミュニティセンター、浸水域にある保育園の高台移転を優先した。各々の施設は補助金の活用もできた。しかし、本庁舎の建て替えの補助金はなく、有利な起債もない。庁舎は耐震診断するまでもなく、耐震補強するにしても構造上、数億円かけて、5年、10年もつのかということもある。

坂場の庁舎、くろしお学園の話もあるが、同校については、前面の建物はくろしお学園の教室で利用しており、熊野校と統合は考えていないと聞いている。

坂場の県庁舎については、県職員が市内から出ていき、100人の住民がいなくなる事となる。県に同居できないかということは今後、検討していかなければならない。

あと、国の施設、税務署が古い、ハローワークは浸水域にある。国の施設、県の施設が一緒になるようなことはできないか。民間の企業等で浸水域にある企業も含め、可能性がないこともない。色々選択肢があるが、どれぐらいの規模、どのような施設を、財政面の問題も考えるとスケジュールが立たない。複合的な合同庁舎ということでも考えており、近々にも議会と勉強会を開く予定でいる。

・委員

国に助けてもらったらよいのではないかな。

・委員

尾鷲市はつまずいている。合併ができなかった。合併特例債を活用できない。

・下村課長

新宮市で建てているが、1㎡あたり4十数万、それと尾鷲の庁舎が5000㎡近いので、40万としても20億円程の規模になる。建てるとなると、色々なものと教育委員会も含めて、一気にかたずけていかないといけない。

・委員

中央公民館が耐震化の検査をして、実際には難しかった。港方面からの避難場所として考えている方もいる。

・下村課長

中央公民館にしても、昭和55年で耐震化しても、ある程度もつが、この庁舎を建てる頃にはもたないため、そういったことから、コンパクトに一緒に機能をいれる方がよいのではないかという話になった。

・委員

市営住宅も古くなっている。市のやることではないが、防波堤も昭和6年着工の古いもの。よろしくお願ひしたい。

・上村課長

尾鷲港でいうと耐震岸壁が最終の工事となっている。市営住宅も昭和30年代ぐらいの建物となっている。

・委員

まとめてどこかに大きな物を建てるのがよいが、そういった面ではお金が必要となる。

・委員

先立つものはお金であり、財政が重要となる。

・委員

国や県の予算をお願いする部分も、市から強力にお願いしてもらうこともやっていただき、災害にあった時に逃げ込める場所がなくなってしまう、庁舎がつぶれると司令塔である職員が被害にあうと復旧ができなくなるため、頑張ってもらいたい。

・委員
合同庁舎という考えは良い。

・下村課長
国、県がのってくれたらよい。

・委員
合同庁舎をしている市町はあるのか。

・下村課長
最近はそのようにできている。国がもっている土地に入ることが多いが、尾鷲の場合は市の庁舎が立っている場所が一等地になってしまっていて、国が持っている土地が周辺でそんなに広い土地でもない。尾鷲は平地が少なく、国は官舎を結構もっている。倉の谷の住宅もつぶして更地になっているが、行くまでの道が狭い。

・委員
尾鷲市が道を広げないといけない。

・下村課長
市道であるためそうなる。

○534 公共交通の確保

・委員
尾鷲の北と南のインターの進捗についてはどのようになっているか、完成はいつか。

・上村課長
国も公表はしていない。国も公表することにより、予算を取りやすくなり早くしたいが、内部調整が必要であるとしている。工事は尾鷲の北の方から9月ぐらいからトンネル工事に着手すると聞いている。予算もかなりついてきているため、進んできているが完成の時期は未定となっている。

・委員
高齢化が進んできており、年配の方の交通事故も多い。規制もかかってくるのではないかと思い、バスの整備の必要性もあると思うがどうか。

・濱口主任主事
県であれば、高齢者が免許証を返納した方が、三重交通のバスの無料乗車券を発行するなどの施策を打っている。尾鷲市としても、そういったことが考えられる。また、尾鷲市としても4路線のコミュニティバスを走らせており、タクシー会社が2社ある。JRの駅も4つあることから、市民生活の向上という視点で公共交通の担う部分は重要であると認識しており、市で確保する部分、民間で実施していただいている部分との住み分けを行いながら、市全体での計画を立てていくよう進めていきたい。

・委員
ふれあいバスは何年ぐらいしているのか。

・濱口主任主事
平成21年から今の形で運行しており、八鬼山線は平成18年から動いている。また、前期基本計画策定時には、須賀利地区においては、巡航船であったが、現在はバスに替わっている。そういった形で要望に併せて形を変えていっている。

・委員
今出ている、須賀利から海山での乗り降りはどうなっているのか。

・濱口主任主事

三重交通が島勝線を運行しているため、須賀利から島勝までコミュニティバスを運行している。

・下村課長

須賀利からの直通はない。三重交通がもともとある路線に競合する形は認めてもらえない。

・濱口主任主事

須賀利の住民からは直通の要望がでている。

・委員

紀北町との連携については、どのようにしているのか。

・濱口主任主事

県と紀北町と尾鷲市の3者で協議を進めている。運輸局の許可が必要となり、バスでは難しいところがある。福祉バスなどの別の手法も含めて須賀利の住民が市内に来やすいようにしなければならないという解決すべき課題がある。

・委員

頑張ってください。

・委員

乗合タクシーはやっているのか。

・濱口主任主事

現在尾鷲市はやっていないが、そういった新しい手法も取り入れていかなければならないと考えており、今年度、計画を作っており、須賀利の問題、乗合タクシーの導入、人口減少問題に対する今後の公共交通についてどういった公共交通網を形成していくのか、持続的にやっていける計画を立てていくので、予約制のデマンドバスや乗合タクシーなどの新たな手法も取り入れていけるよう検討を進めていきたいと考えております。

・委員

乗合バスの福助堂の前で道路の縁石などに腰かけている人を見るため、道路をみると、ベンチを置く場所がない。

・濱口主任主事

歩道の幅員が広くないと、占有許可がおりないといったこともあり、乗っている方が座りたいという気持ちはわかるし、直接の声も聞いている。可能な範囲で設置はしていきたい。

・委員

歩道にベンチを置くほどスペースがないこともある。ふれあいバスについては、結構便利に皆さんやってもらっている。

・委員

その他にもありませんか。 (なし)

これで審議を終了したいとおもいます。本日は、活発な審議ができたと思っております。ありがとうございます。

以上